

今月の PICK UP



『その世とこの世』 谷川 俊太郎・ブレイディ みかこ／著 岩波書店 915.67

大ベテランの詩人と、気鋭のライター。生まれ育ちも生活する場所も、表現する方法も異なるけれど、言葉を紡ぐことを生業とするのは同じ。そんなふたりが1年半にわたって交わした手紙を収録したのが本書です。印象的なタイトルは、谷川さんの詩から取られています。「この世とあの世のあわいに その世はある」。

「地べたのライター」を自称するブレイディさんに、「詩の朦朧体」で返事をしてもらっても良いかと谷川さんが返してはじまった手紙のやりとりは、東京とブライトン、詩と散文、そして「その世」と「この世」と行き来しながら続きます。

司書の おすすめ



『可笑しいホテル』 ベティーナ・コバレブスキー／著 松井 貴子／訳

二見書房 689.8

すっかり暖かくなり、旅行シーズン到来ですね！ 観光や食事とともに、どこに泊まるかというのも旅の楽しみのひとつではないでしょうか。本書は著者が実際に泊まった中から、表紙の「犬ホテルウィリーくん」をはじめ、外観がパイナップルやUFOのホテルなど、“とっておき”ユニークなホテルを24軒紹介しています。写真や周辺の見どころなど情報も豊富で楽しい1冊です。



『読み終えた瞬間、空が美しく見える気象のはなし』 荒木 健太郎／著 ダイヤモンド社 451.7

空を見上げて「これは何という雲だろう？」と思ったことはありませんか？ 本書は、そんな雲の名前が分かるフローチャートをはじめ、天気予報や雨・雪・虹など空に関する様々なことが分かりやすく書かれています。読み進めていくと、著者が見ている世界は何と豊かなのだろうと感嘆します。そんな世界をかいま見た後は、タイトル通りに空が今までより美しく見え、きっと外出が楽しくなります。



『おいしい食の流行史』 阿古 真理／著 青幻舎 383.8

本書は江戸時代から令和までの食の流行を、当時の社会背景を踏まえながら分かりやすく解説してあります。幕末期に流行した「琉球鍋」や大正時代の「三大洋食ブーム」、昭和の「デパ地下」、平成の「スイーツブーム」などが紹介されています。他にも、食をテーマにしたグルメ本・テレビ番組・コミックにも触れ「あんな流行があったな」と思い出しながら読める1冊です。



『平安ものことひと事典』 砂崎 良／著 朝日新聞出版 210.3

約400年続いた平安時代は、きらびやかな貴族の生活や豊かな文化にあふれた時代でした。しかし、一方で、実際の暮らしぶりは、とてもつましい一面もあったといわれています。そんな平安時代のもの、こと、ひとに関する用語を挿絵や例文を織り交ぜながら紹介しています。また、当時に新聞が発行されていたらという想像上の「平安みやこ新聞」では、記事はもちろん雑誌の広告などからも、楽しく当時の様子をうかがい知ることができます。

